

令和元年度 佐賀県立高志館高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
校訓「高志潔心」の理念を指針として、「安全安心」をキーワードに、「マナーアップ高志館」「為して学ぶ高志館」「夢を叶える高志館」の教育3本の矢のもと、学ぶ意欲の向上やマナー意識の定着に向けた指導を徹底する。 また、さまざまな教育活動とおして、「不易」の部分である「人間力」を向上させると共に、専門教育の諸問題に対応した「課題解決力」を身につけさせ、地域から信頼される学校づくりを推し進める。 (1)高い志を持ち更なる成長を目指す生徒の育成 (2)豊かな心の育成 (3)基本的生活習慣の確立 (4)学ぶ意欲を向上させる (5)高志館高校が目指す学校像 ①生徒・教職員が誇れる学校 ②地域に必要とされる学校 ③保護者に信頼される学校 ④中学生が魅力を感じる学校 ⑤情報をタイムリーに発信する学校 ⑥授業と部活動に全力投球する学校 (6)生徒・職員の健康維持に努める	○生徒が高い志を持って自らの可能性を信じ、更なる「成長」を目指せるよう、授業と部活動の充実 に努め、生徒が力を試す挑戦の場を多く準備する。 ○時代とともに技術は変化するが、身につけた精神は生き方を支えることを理解させ、さまざまな教育 活動とおして社会に貢献できる「人間力」を身につけさせる。 ○先が見えない時代にあっては、常に考え・課題を解決する能力が備わっていることが必要である との認識を持ち、生徒に今は何をすべきかを常に考えさせ、課題や責任を果たさせる中で自信を芽 生えさせ、自立しようとする気持ちを育む。 ① 危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実 ② 学科プロジェクトの推進 ・園芸科学科 … 都市近郊型農業プロジェクト ・環境緑地科 … 地域資源活用プロジェクト ・食品流通科 … 学校ブランド商品の開発プロジェクト ③ 学力向上 ④ 希望進路実現100%の達成 ⑤ 生徒会活動や農業クラブ活動、部活動やボランティア活動の活性化 ⑥ 健康維持の推進

達成度

A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生徒指導	・基本的生活習慣の確立ができているか。	・全体の出席率99%以上、延べ遅刻者数前年比2割減を目指す。 ・身だしなみやマナーを意識した行動を実践する生徒の割合を80%以上にする。 ・問題行動発生件数"0"を目指す。	・学年、学科間の連携と情報共有により、組織的な指導体制を確立し、欠席・遅刻者の事後指導の徹底を図る。 ・全職員による登校指導(当番制)を行い、職員からの積極的な声掛けにより、生徒とのコミュニケーションを図るとともに、マナーアップに向けての注意喚起も行う。	B	・全体の出席率は98.9%とほぼ目標値を達成することができたが、遅刻数は前年度よりかなり多くなった。問題行動が過去5年間では一番多い状況であった。 ・身だしなみやマナーに対しては、生徒88%、保護者92%が意識しているのに比べ、職員では60%に留まっており、意識の差にずれがあり、三者が一つになって意識改革を行っていきたい。	・学年、学科間の連携と情報共有を図るとともに、遅刻指導のあり方を見直し、基本的生活習慣の確立を目指していく。 ・登校指導や昼休みの巡回指導など継続的に行い、積極的な声掛けと生徒の行動把握に努める。その中で、マナーアップに向けた注意喚起を行い、生徒の意識向上を目指す。
	●いじめ問題への対応	・生徒の動向の変化をきめ細かく観察し、迅速かつ適切に対応し、真の解決に結びつけることできたか。 ・思春期の悩みへの向き合い方を指導できたか。	・適正なSNS使用のあり方についての指導を徹底し、情報モラルの育成に取り組む。 ・いじめは絶対許されないと意識を生徒一人一人に徹底させる。	・「いじめ根絶のための標語」を全生徒で取り組み、校内の各所に掲示することで、いじめ根絶に対する意識を常に持たせるようにする。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係専門機関と連携し、教育相談の充実を図る。 ・教育相談の職員と連携を密にとり、問題解決に向け日頃より情報交換を行う。	B	・「いじめ根絶のための標語」への取り組みは年2回実施し、校内の見やすい箇所に掲示して、生徒のいじめに対する意識改革に努めた。 ・「いじめはどこでも起こりうる」との観点から、いじめが疑われるケースは、いじめ対策委員会を開き早期解決を目指した。そのため、いじめ事案の発生件数は多かったが、組織的な対応はできた。	・SNS関連の事案が増加していることから、SNSの使い方に特化した講話や情報教育の中での指導実践を行う。 ・いじめアンケートの実施方法を改善し、実態把握ができる工夫するとともに、アンケート実施後の聞き取り・対応をより効果的に活用する。 ・いじめがあった場合の生徒・保護者への支援体制を強化する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係専門機関と連携し、教育相談の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体力づくり	望ましい食習慣と食の自己管理意識が育成されたか。	・朝食をきちんと取り健康的な食習慣を確立するために朝食の喫食率を80%以上にする。	・保健だよりを毎月発行し、健康に関する意識の醸成を図る。 ・朝食アンケートを実施し、朝食を摂ることの大切さを理解させる。	A	・朝食をほぼ毎日食べている生徒は、80.4%であった。健康診断時に保健だよりを発行することで、生徒たちの意識向上につながった。	・校務分掌だけでなく、教科やLHR等横断的に取り組むことにより、更なる効果が期待できる。 ・健康診断後の受診率向上への取り組みを推進する。
学校運営	○危機管理意識の向上と安全対策	・安全管理の意識を持って生徒指導にあっているか。 ・現場に即した緊急マニュアル策定をしているか。	・危機管理マニュアルの見直しと全職員への危機管理体制の周知徹底を図る。 ・講話や研修会を通して、危機管理意識の醸成を図る。 ・安全管理業務を計画的に実施する。	・現状に即した危機管理マニュアルの改訂と伝達講習会の導入。 ・毎学期の自転車点検の実施。 ・毎学期の安全点検の実施。 ・交通講話や防犯講話等を通して、危機管理や防犯意識の向上を図る。	B	・暴排教育講話、交通講話、防犯講話、薬物乱用防止講話、自転車点検指導などを行い、危機管理意識は向上した。 ・最寄りの警察署や地域と連携し事故防止の注意喚起は行ったが、自転車事故等が十数件発生した。	・危機管理意識向上のため、生徒会による登校時の自転車盗難防止の取り組みを継続的に言い、施錠に対する意識を高めていく。 ・自転車事故が多かったことから、自転車の安全運転教育にポイントを置いた教育に取り組む。

②学科プロジェクトの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○プロジェクト学習の推進	・生徒、教員が共に積極的に課題研究やプロジェクト学習に取り組み、生徒自らPDCAサイクルを意識した活動が実践できたか。	・プロジェクト学習に学科全体で取り組む。 ・県連大会や各種コンテストに積極的に出場し、入賞を目指す。 ・生徒主体の研究活動を推進する。	・プロジェクト学習の充実を図るため、県連大会前の事前検討会を実施し、改善課題を整理し、まとめの内容に反映させる。 ・発表後の反省・検討会を実施し、次年度に向けた対応を組織として取り組む。	A	・食品流通科のプロジェクト研究が、県連大会で最優秀賞を受賞し、九州大会へ出場した。また、環境緑地科の発表も優秀賞を受賞した。継続研究も積極的に行われており、PDCAサイクルを活かした学習の実践が行われている。 ・プロジェクト中間発表会を1月末に実施し、次年度に向けた対応を組織として取り組んでいる。	・プロジェクト学習の充実を図るため、学科内での指導体制を構築し、すべての部門においてテーマを設定して、継続した研究に取り組む。 ・学習成果発表会時に、中間発表を実施したり、県連発表会後の反省・検討会を実施する。また、次年度に向けて学科間での発表区分の調整も行っていく。
	○専門教育の充実	・魅力ある専門教育の実践と生徒が自ら学べる実験実習等を導入することができたか。	・専門教科に対する興味関心を80%以上にする。	・専門性を高めるために、各種専門分野から外部指導者を招聘し、直にプロの知識や技術に触れることで、生徒の興味関心を高めるとともに、実験実習の充実を図る。 ・新たな技術分野を積極的に専門教育へ取り入れることで、生徒の興味関心を更に高める。	B	・専門教科への興味関心は高く(81%)と高く、ドローン教育、トピアリー製作など新たな技術分野を積極的に専門教育へ取り入れることができ、生徒の興味関心が更に高まった。	・次年度も継続して、外部講師を招聘し、生徒の興味関心を高めるとともに、実験実習の充実を図る。 ・ドローンやGAP、HACCPを取り入れた新たな技術分野の充実に努め、生徒の興味関心を更に高める。

③学力を向上させる

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・生徒の学習意欲の向上と自ら学ぶ力が育成できたか。	・学力向上プテテストの平均点70点以上を目指す。	・プテテスト実施にあたって、学年団を中心に事前事後指導の徹底を図る。 ・時間を守る「チャイムtoチャイム」の授業実践と定着を図る。 ・民間の試験を活用した学びの基礎診断を活用しながら自主学習指導と定着を図る。	B	・プテテスト実施にあたり、学年団を中心に事前事後指導にあたり、生徒の学力向上に取り組むことができた。 ・学びの基礎診断を初めて導入し、生徒の基礎力を確認させることができた。	・プテテストは、生徒の学力向上には役だっている。更に、生徒の学力向上に向け、生徒が自らやる気を持てる実施内容を考えていく必要がある。 ・学びの基礎診断の結果を、担任、学年及び教科に報告し、その診断結果をプテテストや強化での学力向上策に反映させていく。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・授業力の向上と授業改善が図れたか。	・ICT利活用の推進を積極的に行い、教員のICT活用能力を90%以上に高める。	・ICT校内授業公開週間を学期に1回設定し、ICTを積極的かつ効果的に活用する意識を高めるとともに、他の教員の授業を積極的に参観することで、自身の利活用能力を高める。	B	・ICT利活用公開授業週間を年2回実施し、授業者・参観者相互の利活用能力向上に役立てることができた。 ・電子黒板の活用率は非常に高いが、学習用PCの活用率はまだ低いのが現状である。 ・意識調査では、ICTを活用したわかる授業が展開されているかの問に対し、生徒74%、保護者64%、職員49%という結果であった。	・ICT校内授業公開への参観率を高めるため、職員が気軽に参観できる体制を作る。 ・校内でも優れた授業を実践している教員の研究授業を行い、利活用能力の向上を図る。 ・朝読書や朝HRでの学習用PCの活用策を推進し、ICT利活用能力の向上を図る。

④希望進路実現100%の達成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	・個々の年間目標を設定し、自らの志を達成するための行動・実践に結びつけることができたか。	・本校で学ぶ意義や目標をしっかりと理解して、自分や周囲に対して何ができるか志を意識した行動を実践する。	・全校生徒に対し、年度初めに課題・目標を設定させ、クラスに掲示することで、常にそれを意識した行動に繋げ、年度末に反省を行い、自分を高める活動に活かす。	B	・年度当初、課題・目標を設定させ、クラスに掲示することで、常に目標を意識させることができた。 ・年度末には、課題・目標に対する振り返りを行い、次年度に繋げるよう計画した。	・年度当初の目標設定が、安易な内容もあったため、年度当初の面談の中で、生徒一人一人の目標設定を見直し、適切な目標を設定する。 ・キャリアパスポートを作成し、目標設定が進路への意識へ繋がるよう取り組む。
	○進路実現	・生徒の希望進路の実現は達成できたか。	・生徒の進路実現100%を継続する。 ・生徒の第1希望での進路決定率を高める。	・進路講演会、ガイダンス等による進路啓発 ・全職員による企業訪問、職場開拓と面接指導の実施。 ・学年、学科、教科と連携した小論文、面接指導の実施。 ・マナー講座、マナー検定への積極的な取り組み。	A	・本年度も3年生の希望進路決定率をほぼ100%にすることができた。 ・県内就職者が増加する中で、自己就職が増え、新規企業への就職も多かった。反面、県外大手企業への就職を繋げることができなかった。 ・スポーツ推薦での進学が中心となり国立大学へは希望者でもなかった。	・来年度も引き続き、進路啓発に向けた特別活動やLHR及び3年時のマナー講座・マナー検定等をより充実させていく。 ・全職員による企業訪問・職場開拓を徹底し、面接指導等のスキルアップに努める。 ・求人票や応募書式の変更に対応する。 ・大学入試の変化に対応する必要がある、早い段階からの指導体制を構築していく。
	○キャリア教育の充実	・キャリア教育の推進が図られたか。	・資格取得、インターンシップの充実。	・学科の専門性を生かした検定・資格取得のための指導体制を確立し、受験者数の確保と合格率の向上に取り組む。 ・就労意識を高めることを目的としたプロフェッショナルインターンシップの実施。 ・ものづくりマイスター制度を利用した専門技術指導の実施。	A	・各学科の専門性を生かした資格取得が概ね実施できている。担当者や資格の種類、級位により合格率も異なった。 ・本年度も、4日間のプロフェッショナルインターンシップを実施し、職場の厳しさや働く意識を知ることができた。	・資格取得に対する生徒の意欲を高めるために、専門教科の授業等でも、資格取得の意義について説明し、受験者数を増やすとともに、職員全体での指導体制をさらに充実する必要がある。 ・来年度もこれまでの方針に従い実施を続ける。

⑤生徒会活動や農業クラブ活動、部活動やボランティア活動の活性化

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・生徒会活動、農業クラブ活動を通して地域に貢献しているか。 ・コミュニケーションは「挨拶から」を生徒主体の取り組みとして実践できているか。	・自発的な地域社会貢献活動を推進する。 ・「ごみゼロ運動」や「資源リサイクル活動」を推進する。 ・全国高総文祭開催に向け、「おもてなし」の心で接することができるよう意識の向上を図る。	・JRC部や生徒会、農業クラブを中心に、生徒へのボランティア活動の斡旋を行う。 ・ごみの分別や私物のごみの持ち帰りの呼びかけを行う。 ・地域交流で、相手の立場になったことができるよう意識の向上を図る。 ・接し方や挨拶を身につけさせる。	A	・災害ボランティアや学校周辺の清掃活動などに積極的に取り組む生徒が多く見られた。 ・クラスにごみ箱を設置しないことが私物のごみを持ち帰る習慣に結びついている。 ・初対面の方にも積極的に元気な挨拶ができる生徒もいる反面、そうでない生徒もまだ見受けられる。	・ボランティア活動の斡旋と参加者増加に向けた職員の連携強化を図る。 ・生徒会を中心とした挨拶運動を計画し、挨拶に関する生徒の自覚を促す。 ・校内美化コンクールを定期的に行い、校内美化に関する意識を向上させる取り組みを推進する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
	○生徒会活動	・部活動の活性化は図れているか。 ・生徒会の自主的活動が推進されているか。	・部活動加入率100%を目指す。 ・多くの部活動で、県総体や新人戦をはじめ、多くの大会での入賞を目指す。	・入部状況を確認し、途中退部した生徒等への再入部や別の部活動への入部の呼びかけなどを積極的に行う。 ・部活動の効果的な指導方法の研修会や情報交換会を行うことで、体力、技術力の向上に生かす。	B	・退部の申出に対し、顧問やクラス担任と連携して継続のための支援を行った。結果的に退部となる場合には別の部活動への再入部を促した。 ・ボクシング部やアーチェリー部の全国的な活躍、社会体育でのサッカーやテコンドーなどの活躍が目立ち、新聞でも多く報道された。	・部活動加入率の増加や部活動の効果的な指導へ向けて、引き続き職員同士で連携していく。 ・部活動効率的な指導に向けた研修会を行うなど、職員の指導に関する意識の変化に取り組む。
	○農業クラブ活動	・農業クラブ活動をとおり、専門教科に関する知識・技能の向上を図ることができたか。	・農業クラブ県連大会で、個人・チームを含め、5部門以上での最優秀、優秀等の入賞を目指す。	・校内での選考方法を改善することで、早い段階での指導体制を確立し、内容・技術の向上に生かす。 ・学科の協力、連携体制をしっかりとつくる。	B	・県連大会では、プロジェクト発表Ⅱ類で最優秀賞、農業鑑定競技(農業土木)で最優秀賞・優秀賞、平板測量競技で優秀賞に入賞。5部門での入賞はできなかったが、プロジェクト発表での数年ぶりの最優秀賞をとれたことは大きな成果であった。	・意見発表やプロジェクト発表については、指導者任せではなく、大会前の検討会を取り入れるなど、新たな視点からの意見を反映させ、内容の充実と成績向上に努める。

⑥健康維持の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・学校行事の精選と効率的な運営がなされたか。	・部活動休養日と学校行事の効率的な展開の工夫改善。 ・定時退勤推進日の効果的な運用。 ・年次休暇等を取得しやすい環境改善。	・平日の部活動休養日と定時退勤推進日を連動させることにより、休養日と顧問の定時退勤がしやすい環境を確保する。 ・定期考査の午後に会議や研修を入れず、年休が取得しやすい条件をつくる。 ・会議や研修を組み合わせることで、効率的に行事を遂行する。	A	・職員会議と職員研修を毎月同日に行うことで、その日を部活動休養日に設定できるようになり、行事の効率化と定時退勤推進が図れるようになった。 ・定期考査の午後でも会議や研修を外すようにしたことから、年休や振休がとりやすくなった。	・今年度の改善は大きな効果を得ていることから、会議や研修の効率化に加え、会議内容の精選心がける。朝礼での伝達で済むものは、運営委員会や職員会議題から外すなどの対応を検討する。 ・教職員の意識改革の推進。校務分掌内の役割分担の適正化を図り、一部の教職員への負担を減らす。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○開かれた学校づくり	・校外、地域へ専門高校の魅力を発信できたか。	・積極的な学校便りの発行と学校HPの更新を行い、情報発信に努める。 ・学校開放行事を積極的に推進することで、地域と生徒の交流活動を充実させ、生徒の顔が見える教育を展開する。 ・体験入学参加者数240人以上を目指す。	・学校だよりを年10回以上発行するとともに、学校HPの更新は月2回以上を目指す。 ・文化祭や生産物販売、開放講座、幼小中交流活動等を行うことで、地域に根ざした学校づくりを行う。 ・体験入学の開催時期や体験学習内容、PR方法を工夫し、魅力を感じる内容にしていく。	A	・学校便り、学校HP更新は定期的に実施することができた。 ・学校便りは、全校生徒へもしっかり認識してもらおう簿記演習室前の掲示板に掲示した。 ・体験入学は、時期をずらすことで、例年になく、多くの生徒に参加してもらうことができた。 ・地域のNPOと連携して、高校生マルシェや飲食店とのコラボ企画など農業高校の取組等についてPRすることができた。	・新教育システムへの移行に伴い、学校HPも新しくなり、複数の教員での更新がしやすくなった。HPの更新については、担当者の役割分担と更新内容のチェック機能を強化し、より魅力的なHPへとつくりかえる。 ・今後ともNPOなどの外部機関との連携を継続して、農業高校の魅力を発信し、生徒募集に繋げる取り組みを推進する。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

本年度は「ステップアップ高志館」をスローガンに、各分野で新たな取り組みを始め、魅力ある学校づくりと地域への情報発信に重点をおいて取り組んできた。進路保障や部活動、農業クラブ活動の活性化では、確かな実績を積み上げることができたが、生徒指導上の問題やいじめ問題の発生件数が例年以上に多く、反省の残る1年であった。次年度に向けては、指導体制を見直し、風通しの良い教育環境を整備し、生徒が気持ちよく学べる学校づくりに取り組んでいく。特にICT活用教育を推進し、わかる授業の徹底と満足度の向上、専門教育での取り組みを強化し、専門高校としての教育内容の充実を図る。

●は共通評価項目、○は独自評価項目